

## 第3回鳥栖市学校給食評価委員会〔議事要旨〕

### 議 事 概 要

#### 委員会の目的

当委員会は、「鳥栖市学校給食基本理念・基本計画（初稿）」を評価することを目的としています。

#### 委員出席状況紹介

井原委員、牛嶋委員、江口委員、久間委員、徳井委員、櫛崎委員、三成委員の7名

#### 第3回検討委員会での審議事項

1 課題抽出の妥当性について

#### 委員会の今後の予定

8回の委員会を開催し、平成23年9月を目標に、「鳥栖市学校給食基本理念・基本計画（初稿）」の評価を行い、市に報告します。

# 議 事 要 旨

- 1 日 時 : 平成 23 年 7 月 25 日 (月) 午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分  
2 場 所 : 鳥栖市役所 3 階大会議室  
3 出席者  
〔委 員〕 : 井原委員、牛嶋委員、江口委員、久間委員、徳井委員、檜崎委員、三成委員  
〔鳥栖市〕 鳥栖市長 (冒頭挨拶のみ出席)、権藤教育部長  
〔事務局〕 尼寺教育部次長兼総務課長、石橋総合政策課長ほか
- 

## 4 議事要旨 :

### 鳥栖市長挨拶

#### (1) 議事 課題抽出の妥当性について

委員長 鳥栖市の学校給食の課題を考える上で、施設面、食育 (鳥栖モデル)、担い手のあり方という 3 つのポイントがあると思います。

初稿の考え方について、事務局から説明をお願いします。

事務局 初稿においては、最優先に衛生的環境を確保すべきとの理由から、施設を抜本的に見直し、3,000 食規模の給食センターを建設することが必要だと考えています。

1 つの施設では鳥栖市の小学生全てをまかなうことはできないので、将来的には 2 つ目のセンター建設も必要だと考えているところです。評価委員会においては、給食センター化の妥当性と、さらに踏み込んだ検討をお願いしたいと考えております。

委員長 では、第 2 回での鳥栖市の小学校の給食室の視察を終えて、施設面、衛生面、調理環境など感じられたことを意見交換していきます。

#### 委員

おいしい給食や食の指導を考えると自校方式がよいと思うが、実際に施設を見て安全が第一だと感じました。センター建設により施設面の整備が必要だと思います。

#### 委員

汚染・非汚染区域の区分がされておらず、施設面での対応は厳しく、運用で対応されている状況でした。自校方式での施設整備はコスト面、建物の拡張が難しい敷地の状況から難しいので、センターで行うしかないのではないのでしょうか。

#### 委員

給食室を初めて見て、これまで現場から市へ要望などなかったのか疑問を感じました。給食センターを建設する方向のみを検討されているような気がしますが、汚染・非汚染区域の区分でスペースの確保をするために食器の洗浄だけでも委託する等、他の方法も検討してはどうかと思いました。給食センター化に伴い、民間のコスト意識が発生し、今の水準の給食が提供できるか不安です。

委員

予想よりも新しい施設だと思いましたが、汚染・非汚染区域の区分が曖昧で、温度・湿度については保健所からいつも指摘されています。また、センター化で手作り給食・食育をどこまでできるのか疑問です。

委員

田代小は、市内で一番いい施設だと聞いていましたが、安全に問題があると驚きました。日本の縮図をみた思いで、これまで何事も経済優先で進め、市民生活を考えてきたのかと感じました。調理員さんは厳しい環境で頑張られており、人を優先した環境づくりが必要だと思います。運用上での工夫も限界で、敷地の問題からもセンター化もやむを得ないと思います。

委員

調理員の子どもたちに対する熱意を強く感じました。食育の観点からは自校方式がいいと思うので、どうにかならないか考えましたが、これ以上の改善は無理だと思います。センターでできる食育で、例えば家庭科室の有効利用や地域との連携など鳥栖ならではの食育を考えてはいかがでしょうか。

委員

出来立てのものを子どもたちが食べられる環境は素晴らしいが、衛生・安全面の管理は敷地の問題など物理的に困難だと感じました。センター整備の上、食育とあわせて考えていくべきではないでしょうか。

委員

手作りをどう伝えていくのかが問題だと思います。また、給食費の滞納の対応についても不安があります。

委員

衛生・安全、担い手、食育についてトータルでの検討が必要ではないでしょうか。

委員

給食基本法の改正で安全の確保が定められました。学校給食衛生管理基準も厳しくなり、安全面から各地で今までの自校方式に限界が来ているようです。鳥栖市の給食室では調理環境が悪く窓を開けて調理をされていますが、市は責任を持って、早急に給食室の安全面・衛生面を確保し調理環境の改善が望まれます。

委員

衛生面では喫緊の問題ばかりのようですね。

委員

現在の安全は現場の頑張りで保たれていると感じます。設備など、例えば冷蔵庫は食材と調理用の2台必要となっていますが、現状は区分も曖昧で衛生面は限界です。

委員長

センターでできる食育に関する工夫については、みなさんどう思われますか。

委員

農業体験を通しての食育を実践することで、子どもたちの意識の変化が見られます。センター化となってもきちんとかかわり、「食」への感謝を伝える指導を行えば、子どもたちは育ちます。

委員

現在の施設では、安全を運用などのソフト面でカバーすることで手一杯で、食育の工夫まで手が回らないのではないのでしょうか。自分の子どもは給食が「手作り」だと知っていても、そのありがたみを分かっていませんでした。先ほどあった農業体験を通じて「食」への感謝など学んだようです。施設と食育をしっかりと考えるべきだと思います。

委員

食育は小学校が一丸となって取組まないといけません。校長先生のリーダーシップのもと各教科での取組みなども必要です。  
例えば、地元の味噌を使った「鯖の味噌煮」があったら、社会科で「味噌」という地域の産業を学習、理科で魚類を学習、家庭科で調理方法や栄養を学習というように拡げることができます。

委員

麓小学校が食育指定校となった時は、学校が一丸となり食育が充実し、家庭との連携が密になったことがあります。教科も大事ですが、生きていくために必要な食育も大事です。

委員

平成8年に起こったO157事件を受け、衛生管理が強化されましたが、すぐに国の基準を満たした施設は多くありません。しかし食中毒の発生は二桁から一桁に減りました。このことは現場で衛生管理の考え方が浸透すれば、確かな効果がでることを意味しています。そういった観点からも、これからは食育を実践する人材育成が必要で、栄養教諭を増やすことが必要だと思います。

委員長

これまでの意見をまとめると、衛生面から安全を確保するために、現在の学校敷地では物理的に困難、またコスト的にも厳しいと言えるのではないのでしょうか。

委員

これまで現場の意見を聞かれたことはあるのですか？

事務局

初稿については現場の方と話し合いながら作成しました。

委員

施設の設計では、実際に調理する人と十分に話しあって作るべきです。そうしないと現場の人が働きやすい職場環境が実現しにくいと思います。

委員長

「現場の調理員さんが働きやすい環境にするべき」という意見が出ましたが、実際に視察され、どう思われましたか。

委員

田代小では、調理員さんの中でも、調理に携わる人と携わらない人に分かれていました。このような運用では、人は育ちません。また、2回に分けての調理は非効率な部分もあります。次を担っていく人を増やし、調理の効率もあげた方がいいと思います。効率の点では、やはり施設が問題となります。

委員

鳥栖小でも、和え物室がない状況など、動線が効率的ではないと感じました。

委員

麓小では、最小限の人員配置でアレルギー対応食も作られていました。誰か調理員が出て来られない状況でも補完できる体制が必要だと思います。

委員長

施設の構造から、動線の混乱もあるようですね。

委員

施設についてですが、給食センターの場合、食中毒が発生したら、3,000食が全て停まってしまう。また配送の時間を考えると給食時間が十分確保されないのではないか不安です。

委員

学校給食も手がけている民間施設の方と話す機会がありました。そこでは汚染・非汚染区域もきちんと区分され、温度・湿度も管理されています。真空冷却機も整備されています。鳥栖市の現状は民間から見たら驚くべきことです。最新鋭の施設整備は当然として、整備にあたっては現場の意見を十分に反映させるべきだと思います。

委員

センターになっても、管理栄養士などの専門家が指導するので食中毒の問題はありません。ノロウイルスを出さないために、調理員が生ものを食べないというように、指導が徹底されているところもあります。

委員

「安全が100%大丈夫」ということはありません。食中毒等の要因は、施設をきちんとしてもそこを使う人がどのようにやるのかで大きく変わってきます。つまり、人の要因が大きいので、研修等を充実させる必要があります。ところで施設の運営について、民間など考えたことがありますか？

事務局

給食センターについては、現在の職員での対応を考えています。担い手のあり方については、将来的なことも含め、評価委員会でご議論をお願いできればと思います。

委員長

施設の担い手についても、財政状況など見た上で検討が必要のようですね。

委員長

本日の皆さんの意見は

- ・施設は衛生的な面から限界が来ている
- ・コスト面、敷地などの物理的な面を勘案すると、給食センター建設が望ましい
- ・食育の推進は体制などのソフト面での検討が必要

とまとめられると思います。

今回は、給食センター建設についての妥当性を合意し、建設スケジュールなどを検討したいと思います。

また、担い手や食育のあり方については次回以降に検討を重ねたいと思います。

委員長

今後の会議の進め方ですが、各回の取りまとめを委員持ち回りで行いたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員了承。今回は井原委員がとりまとめを行う。)

委員長

提案なのですが、給食を考える上で、中学校を含めて考えた方がいいのではないかと  
思うのですがいかがでしょうか。

(委員賛成)

委員長から次回以降の検討に必要な書類を事務局に指示

### 事務局連絡事項

- 第4回評価委員会：8月18日（木）18時～
- 第5回評価委員会：8月31日（水）18時～
- 第6回評価委員会：視察先と調整し事務局から連絡
- 第7回評価委員会：9月14日（水）19時～
- 第8回評価委員会：9月26日（月）18時～

委員長 第4回評価委員会は8月18日（木）18時からです。本日の委員会はこれで終了します。